

第4回 令和元年度 水道分野における官民連携推進協議会
グループディスカッションでの意見交換の概要

テーマ3 広域化に対する取り組み

■ 水道事業者

- ・ 広域化の検討を進めるにあたり、外部に委託して具体的な検討に入る前に、何らかの準備・整理が必要と考えている。この点について、民間事業者からの意見を伺いたい。
- ・ 民間事業者：当社は料金関係業務において広域化の実績がある。その経験から、システムや用語などの統一が必要と感じており、事前の協議が重要である。
- ・ 民間事業者：クラウドの活用や申請の電子化などにより、コスト削減や効率化が可能ではないか。
- ・ 民間事業者：まずは水道事業者がお互いの現状を把握する必要がある。また、同じ目的があっても、用語や資料・書類の様式などが異なると、見通しよく検討を進められない。これらを踏まえた上で、民間事業者の意見なども参考にしながら議論すると良いのではないか。
- ・ 民間事業者：業務の発注を共同化すれば、水道事業者はコスト削減が可能となり、民間事業者はまとまった仕事量・予算が確保できるため、技術者を拠点に配置することなどが可能になる。
- ・ 民間事業者：例えば、異なる施設について（契約も個別であったとしても）、1つの民間事業者に委託することで、結果として広域化につながることも考えられる。また、いきなり施設統合や一括管理を開始することは簡単ではないため、段階的に進めていくのが良いと思われる。なお、例えば大きな浄水場の管理と山間地の簡易水道の管理は、異なる感覚で取り組む必要がある。
- ・ 民間事業者：熟練した技術者の頭の中にしかない知見・情報が多くあると感じている。これらを紙に書き起こすことから始めるのも重要である。
- ・ 民間事業者：都道府県が広域化を主導する際、課題の調査についてはアンケートではなく、直接顔の見える実務担当者へのヒアリングなどの方法は採れないか。また、薬品の共同購入や水質検査の共同発注など、できるところから進める中で発展的にどのような形が望ましいかも見えてくるのではないか。
- ・ 民間事業者：水道事業者がお互いの現状を把握するために、例えば、ヒアリングシートのようなものを作成・利用するのも一案である。
- ・ 民間事業者：広域化に際して水道料金に格差がある場合、これを統一できるかがどうしても課題になってくる。また、平野部と山間部では広域化の方法や進め方が異なってくるのではないか。
- ・ 民間事業者：各水道事業者の経営状況について、現在だけでなく将来を見据えた会話をしないと検討が始まらない。その上で、例えば、水道施設の位置図を確認し合って統廃合の議論をしてみるなどが考えられる。
- ・ 民間事業者：広域化の担当者として、熟練・中堅・若手の最低3名を揃えている水道事業者は話がスムーズに進むことが多いと感じている。また、広域化の検討を始める前の現状

把握が重要である。水道事業者に定期的にヒアリングシートを配付して意見をまとめ、民間事業者も参加して議論できる場を設けると良いのではないか。

- ・ 民間事業者：方向性を見据えた上で勉強会や話し合いなどの交流の場を持つことが重要である。今後、例えば水質検査の共通化などによるメリットをターゲットとして検討を進めてみてはどうか。
- ・ 民間事業者：中核となる水道事業者が広域化した場合にどうなるか分からず二の足を踏むという声をよく聞く。現状分析の不足に起因する部分については、IoT を活用したマッピングや施設台帳整備などが有効と考えられる。
- ・ 民間事業者：都道府県が GIS を構築し、各水道事業者がこれを利用できるようにすれば、小規模の水道事業者もマッピングや施設位置図を作成しやすいのではないか。また、GPS などを使用するのも一つの方法である。
- ・ 民間事業者：なぜ広域化が必要かを認識するため、データとともに課題を整理し、次に全体を見渡し、施設やシステムの統廃合などを検討すると良いのではないか。

■ 水道事業者

- ・ 広域化の土壌を整えるため、顔の見える研修会を数多く開催していきたいと考えている。どのような研修会が広域化につながり有益か、意見を伺いたい。

- ・ 民間事業者：事務の委託についてなど、ソフト面の研修会が始めやすく効果も見えやすいのではないか。
- ・ 民間事業者：水道事業者の内部だけでは情報が限られてしまうので、様々な民間事業者を呼んで勉強会をするのも一つの方法である。
- ・ 民間事業者：技術継承、業務効率化などの課題に対し、民間の技術を利活用して、どのように解決できそうか、最新技術を勉強する機会を設けてはどうか。
- ・ 民間事業者：若手の技術力を底上げする観点から、熟練した技術者の頭の中にあるものを「見える化」して、伝える場にするのも一案である。
- ・ 民間事業者：地域によっては、例えば、ろ過技術の知見があまりないことがある。不足している技術力を補完できるような研修会も有益ではないか。
- ・ 民間事業者：利用可能な補助金・交付金を認識していない水道事業者も多いように思われる。研修会を通じて情報やイメージを共有することも考えられる。
- ・ 民間事業者：全国の先行事例の中から広域化のメリットを紹介することで、動機付けや機運を醸成することが可能ではないか。
- ・ 民間事業者：水道事業者の若手職員と地域の利用者のように、枠や概念を広げて実施してみることも考えられる。

■ 水道事業者

- ・ 広域化などの検討と並行して、ダウンサイジングも重要と考えている。その際、シミュレーションが必要になるが、その都度、委託するのは財政的に困難である。例えば、プラットフォーム（PF）で手当てされるのが望ましいと考えているが、実現しない理由について教えて欲しい。

- ・ 民間事業者：標準化するというのは、民間事業者にとって少々厳しいところもある。また、仕様を合わせていく必要があるとすると、中々折り合いが付かないことも考えられる。
- ・ 民間事業者：PF 自体はかなり前からあるものの、これまで水道事業者からの話題の多くは委託の方法論などであり、具体的な取組みについての議論はできていなかったように思う。また、実務担当者の参加が多いためか、その場で意見の一致をみるのが少なく、次第に参加する水道事業者の数が少なくなっていった印象がある。このような観点からは、各水道事業者の課題について、一つずつ個別に丁寧な検討を行うことも重要と考える。

以 上